

**Q** 東毛広域幹線道路は、ことし6月までに高崎駅東口から玉村町の藤岡大胡線バイパスまで開通する。そして、平成25年度には伊勢崎まで暫定2車線で開通する。玉村町にとって画期的なことであるが、町の発展にどう生かすか。



## 東毛広域幹線道路の開通を町の発展にどう生かすか

島田 榮一 議員



全線開通が期待される東毛広域幹線道路

**A** 町長 具体的には、企業や集客力の高い商業施設の誘致、農産物直売所等の整備などによる地域経済の活性化を考えている。めざす将来像としては、第5次総合計画の基本構想である「県央の未来を紡ぐ玉村町」を実現したい。

**Q** 東毛広域幹線道路の街路樹は、どのような樹木を考えているか。

**A** 町長 伊勢崎土木事務所と協議して、桜を中心とした街路樹にしたいと考えている。藤岡大胡線から与六分前橋線までの道路未利用地を、最大限利用したい。

**Q** 今後、玉村町を売り出していくには、(仮

称)高崎・玉村スマートインターチェンジ周辺の道の駅構想は、町の活性化のためにも理にかなっている。どのように考えるか。

**A** 町長 (仮称)高崎・玉村スマートインターチェンジは、平成25年度開通予定であり、東毛広域幹線道路の全線開通と同時期になるものと予想される。スマートインターチェンジと東毛広域幹線道路が直結することによって、群馬県の主要都市をつなげる大動脈となり、玉村町の玄関口に位置づけられるものと考えている。道の駅構想については、今後とも関係機関と協議しながら、実現できるように検討していきたい。

## 公契約条例を制定する意欲はあるか

石川 眞男 議員



**Q** 指定管理者や業務委託者に対し、公契約履行過程で、自治体の政策や理念を実現する担い手としての自覚を促す公契約条例の制定は歴史の流れと考えるか。

**A** 町長 単にコスト削減だけでなく、行政サービスの水準を維持向上



群馬県立女子大学

させる観点から、プロポーザル方式を採用、労働者の労働条件などを安定的に確保する能力を持った事業者を総合的に審査、選定している。

**Q** 公契約条例の制定に関しては、国や他市町村の動向を注視していきたい。

**Q** 地域主権や協働という言葉が躍っている。昨今だが、本来の意味での男女共同参画社会の実現こそが、それにこたえる道と考えるが、どのように実践していくか。

**A** 町長 まますます多様化する住民ニーズに対応するためにも、いろいろな視点を持った職員が必

要で、女性の管理職登用は当然だ。能力と意欲がある職員を研修等で鍛えながら、実践対応したい。

**Q** 群馬県立女子大学との連携契約につき、細部ではどのような交流をどのような流儀で行おうと考えているか。

**A** 町長 審議会委員として町の諸計画策定への参加、生涯学習における講師、町主催の事業や行事への参加、学生による防犯パトロールなど、まちづくり全般にわたる相互交流を深めたい。

講師依頼などについては、研究の負担にならないよう配慮したい。

## 若い人の定住を増やすには、住宅整備が不可欠

備前島 久仁子 議員



**Q** 町の経常収支比率は、94%を占めている。経済不況が続く、町税収入も減っている中、この固定費をどう削減していくのか。

**A** 町長 人件費や施設管理経費の削減などで、5年後には92%とした。また、税収を増やすた

めにも、収納率を上げ、若い世代の転入促進を図りたい。

**Q** 若い世代を町に転入させる策を、どのように考えているか。

**A** 町長 東毛広域幹線道路やスマートインターチェンジが整備されるので、産業振興を通して雇用を生み、子育て環境の充実に図りたい。

**Q** 道路が整備され、近隣市への通勤や通学が可能となる。町営住宅整備や、大型団地の造成を、積極的に進めるべきではないか。

**A** 町長 検討していく。

**Q** 協働推進センターが、住民活動サポートセンターと名称変更した。協働は、町と町民で一緒にまちづくりをしていくことだが、現在のサポートでは、行政の側面支援だけに感じるが。

**A** 町長 皆さんの交流と情報発信の場所として活用してほしい。

**Q** クリーンセンターの大改修が始まる。リサイクルできる古紙(箱やチラシ、封筒など)の回収を、全区で取り組むべきではないか。

**A** 町長 ごみの減量は急務であり、早期に全区で実施する。



若い世代の定住者を、どう増やすのかが大きな課題

## 町の観光拠点となる「観光協会」の設立を求める

斉藤 嘉和 議員



**Q** ことしの7月から9月にかけて、県内では大型観光キャンペーンが実施される。町では、たまむら花火大会でこれに参加するという。町長には、観光協会を立ち上げる考えがあるというが、これからの道筋をどう考えているか。

**A** 町長 今後の町の観光協会を設立することが、観光発展の足がかりになると考えている。

キャンペーン終了後、その成果や問題点の検証を行い、設立の検討を進める。

**Q** あまり積極的とはいえない答弁だが、平成23年度中にはぜひ立ち上げてほしい。

**A** 町長 努力したい。

**Q** 観光協会の、主な業務は何か。

**A** 町長 ホームページやPR活動を通して、タイムリーな観光情報を発信するだけでなく、観光客

の誘致、観光事業の企画立案など、観光全般の業務を行うことを想定している。

また、ボランティア団体をはじめ、周辺市町村とも連携を図り、町の観光の中核機関として活用したい。

**Q** ことしを、町の「観光元年」と位置づけ、頑張っていたきたい。道の駅には観光案内所が必要となるが、観光協会の事務所を併設する考えはあるか。

**A** 町長 検討する。



玉村町のご当地ぐんまちゃん